

ふくしま 放射線・防災教育

実践事例パンフレット

福島県教育委員会

平成29年3月発行



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.



緊急搬送を学ぶ



霧箱を用いて放射線を学ぶ

放射線・防災教育の 「これまで」と「これから」

平成23年3月に発生した東日本大震災では、地震や津波により福島県でも多くの学校、児童、生徒が甚大な被害を受けました。特に本県では、福島第一原子力発電所の事故により、発電所の外へ放射性物質が飛散するという想定外の事態に至りました。このような状況下において、本県では、放射線や防災に関する知識を習得し活用して、子どもたちが自ら考え、判断し、行動する力、「生き抜く力」を身に付けることを重要視し、放射線教育・防災教育に力を入れてきました。

今後は、これまで身に付けてきた力に加え、地域社会の一員として、安全・安心な社会づくりに貢献する態度も身に付けてほしいと考えています。また、震災を風化させず、風評被害や避難者へのいじめ等についても考えることができる子どもを育成していきたいと考えています。

子どもたちが、これからの人生を前向きに考え、未来を拓いていくことができるよう、引き続き、教職員、関係者で支援していきましょう。



平成28年度実践協力校 ①～④ 防災教育 ⑤～⑫ 放射線教育
本パンフレット内に実践内容を掲載しています。

- | | |
|------------------|-----------------|
| ① 福島市立佐倉小学校 | ⑦ 会津若松市立行仁小学校 |
| ② 猪苗代町立吾妻小学校 | ⑧ いわき市立小名浜第一小学校 |
| ③ 南相馬市立高平小学校 | ⑨ 南会津町立田島中学校 |
| ④ 福島県立白河旭高等学校 | ⑩ 川俣町立川俣小学校 |
| ⑤ 富岡町立富岡第一・第二小学校 | ⑪ 三春町立三春中学校 |
| ⑥ 富岡町立富岡第一・第二中学校 | ⑫ 西郷村立羽太小学校 |

県外教育関係のみなさまへ

避難児童生徒に対するいじめ事案が発生しています。放射線等に関する正しい理解を深め、いじめが繰り返されることのないよう、本パンフレット及びWebサイトをぜひ活用願います。

1 風水害や火山噴火も想定し、学校・家庭・地域が連携した多様な防災学習

福島市立佐倉小学校(児童数129人)

実践

保護者・地域と連携した「さくら防災デー」(全学年)

- 防災専門監による出前授業、避難所体験、非常食体験
- 吾妻山の噴火を想定した避難訓練、引き渡し訓練

防災マップづくり(3年総合)

- 防災探検や防災マップづくり
- 身を守るために判断し行動しようとする意識を高める実践

「青少年赤十字防災教育プログラム」の活用(6年学級活動)

- 防災コミュニケーションワークショップの体験
- 災害時のコミュニケーション能力の大切さに気付く実践

関係機関と連携した学習(全学年)

- 東北大学、福島河川国道事務所、磐梯山噴火記念館による出前授業(土石流の模型実験など)
- 避難所である福島西学習センターでの防災授業(施設・設備の見学と講話)



▲土石流の模型実験



▲防災探検での取材

火山や川とともに暮らす

海岸沿いで暮らす

防災教育

2 自然の恵みへの感謝の気持ちと自らの命を守る力を育てる防災学習

猪苗代町立吾妻小学校(児童数83人)

実践

火山噴火が生み出した美しい景観・自然の恵みを味わうフィールドワーク

- 4年総合「猪苗代湖にそそぐ川」
- 5年総合「磐梯山天鏡台・五色沼」
- 6年総合「沼尻軽便鉄道」

火山噴火の避難方法

- 5年総合「磐梯山の噴火と恵み」
 - ・ 磐梯山噴火記念館の出前授業「火山の災害について」
 - ・ 学校周辺の防災マップづくり
 - ・ 火山噴火の際の避難の仕方

家に一人でいるときの避難の仕方

- 2年学級活動「地しんがおきたら」

児童が主体的に考えて行動する避難訓練

- 全学年学校行事「避難訓練」



磐梯山フィールドワーク

安達太良山の噴火「避難方法を考える」



火山の恩恵と災害を意識して暮らす

地域の防災リーダーをめざす



◀宮城県石巻市立大川小学校での学習(現地ガイドによる説明)

▼地形図でシミュレーション



▲下校時に大地震が発生したら

4 JRC(青少年赤十字)活動を生かした防災リーダーが育つ防災学習

福島県立白河旭高等学校(生徒数592人)

実践

公開文化祭:非常炊き出し体験の実演

- 災害救助用炊飯袋を使ったカレーづくり

夏季講習:救急法基礎講習会

- 赤十字救急法指導員による一時救命処置の講義と実技

授業実践1年:現代文

- 小論文課題「あなたの家の防災は」を通して考える。

授業実践3年:グループワーク

- ホームルーム「あなたも防災リーダーになろう」
- ホームルーム「ペーパータワーをつくろう」

防災避難訓練

- 緊急地震速報を用いた訓練
- JRC委員会による「災害時の知恵」実演
- 救急救護法の実践

JRCのプログラムを活用しました。(H27.福島県と日赤の提携)



▼文化祭での非常炊き出し実演



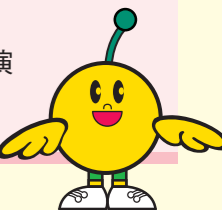
▼身の回りにあるナイロン袋での応急処置



▲互いの意見をまとめてペーパータワーをつくろう



▲避難所の写真を比較しての話合い

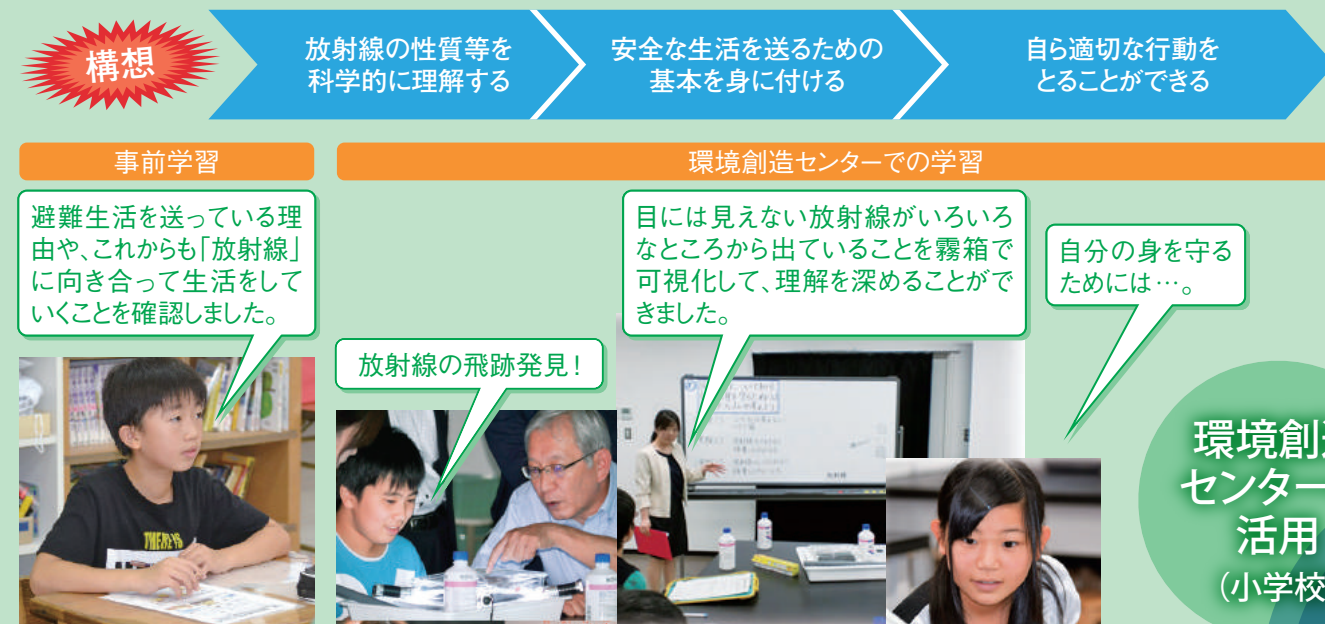


5 小学校6年 学級活動 「放射線の性質を知ろう」

放射線の性質を知り、自分の身を守るためには
どうしたらよいかを自ら考える

富岡町立富岡第一・第二小学校(児童数15人)

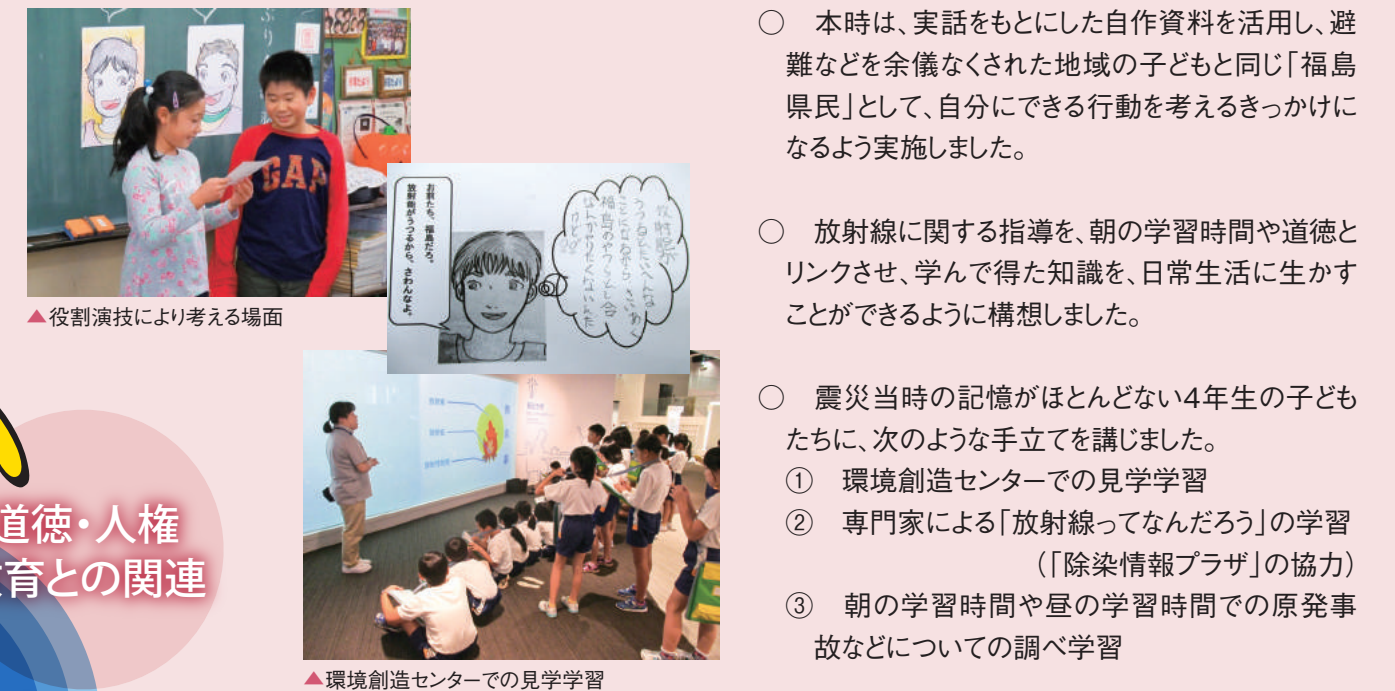
- 放射線に関する安全教育を学級活動を中心に展開しました。



7 小学校4年 道徳 思いやりを行動で「あのひとことで」

原発事故に関わる心ない言動から、「思いやり」について深く考え、
自分たちの日常生活につなげる

会津若松市立行仁小学校(児童数320人)



6 中学校全学年 理科・学級活動 「環境創造センターの展示施設を活用した課題解決学習」

環境創造センターの展示施設を活用し、
放射線等に関する自分の課題解決に向けた調べ学習

富岡町立富岡第一・第二中学校(生徒数18人)

- 「ふるさと創造学」(総合)と関連を持たせ、生徒一人一人が放射線等に関する自らの課題を、環境創造センターの展示や施設を活用して調べ学習や実験等を実施し、その内容をポスターにまとめました。



8 小学校全学年 学級活動 「学級活動における放射線教育」

除染情報プラザと連携し、
各学年の実態に応じた放射線教育の実践

いわき市立小名浜第一小学校(児童数284人)



9 中学校2年 理科 「天気と変化」

原発事故当時の気象条件と放射性物質汚染地図とを 関連させて考える

南会津町立田島中学校(生徒数194人)

前時までに「気圧配置と風の吹き方」や「天気図の読み取り方」を学んでいますが、この知識を活用することで飛散した放射性物質がどのように広がっていくかを事故当時の気圧配置をもとに予測させ、理由を加えながら説明させました。

気圧配置をもとに
予測説明▶



授業公開の様子

- 放射線教育をメインにするのではなく、教科の年間計画に合わせ、無理なく授業に組み込み実施することができました。
- 基礎・基本の学習から、発展的な学習への流れをつくり、生徒は既習事項を活用しながら思考を深めていきました。
- 生徒は理科学習の意義を感じながら授業に参加することができました。

さらに 1年道徳「ちがいのちがい」「それでも僕は桃を買う」<人権教育>
2年家庭科「食品の選択と購入」<食育>
3年国語科「新聞の社説を比較して読もう」<人権・環境教育>
など他教科等でも実践しました。



カリキュラム
マネジメント
～教科のねらいに
添って～

カリキュラム
マネジメント
～教科間の学びを
結んで～

放射線教育

食育・健康教育
との関連

カリキュラム
マネジメント
～6年間の学びを
結んで～

10 小学校6年 家庭科 「工夫しようおいしい食事」

身近で安全・安心な食品を使って、 栄養バランスのよい1食分の献立を考える

川俣町立川俣小学校(児童数199人)

- 主に栄養のバランスのとれた食事について考え、彩りや味のバランスだけでなく、好みや季節、そして食材の安全性(放射性物質検査)等の観点についても大切に扱いました。
- 学習内容が児童の日常生活で実践できるよう、身近な食品を使うことを前提として献立を考えました。
- 料理に使う食材を選ぶ際に、市場に流通しているものは、生産・流通の各段階で放射性物質のモニタリング検査を実施し、安全が確認されていることを押さえました。また、自家農園や家庭菜園等で採れた、市場に流通しない食材については、自己判断で口にしない方がよいことや、町内の公民館や食品放射線検査所で検査が受けられるので、安全が確認されてから食べるとより安心できることを実感できるように配慮しました。

赤・黄・緑の3つのグループの
バランスを考えて…。



自分の家で作った野菜も、
ぜひ料理に使いたいなあ。



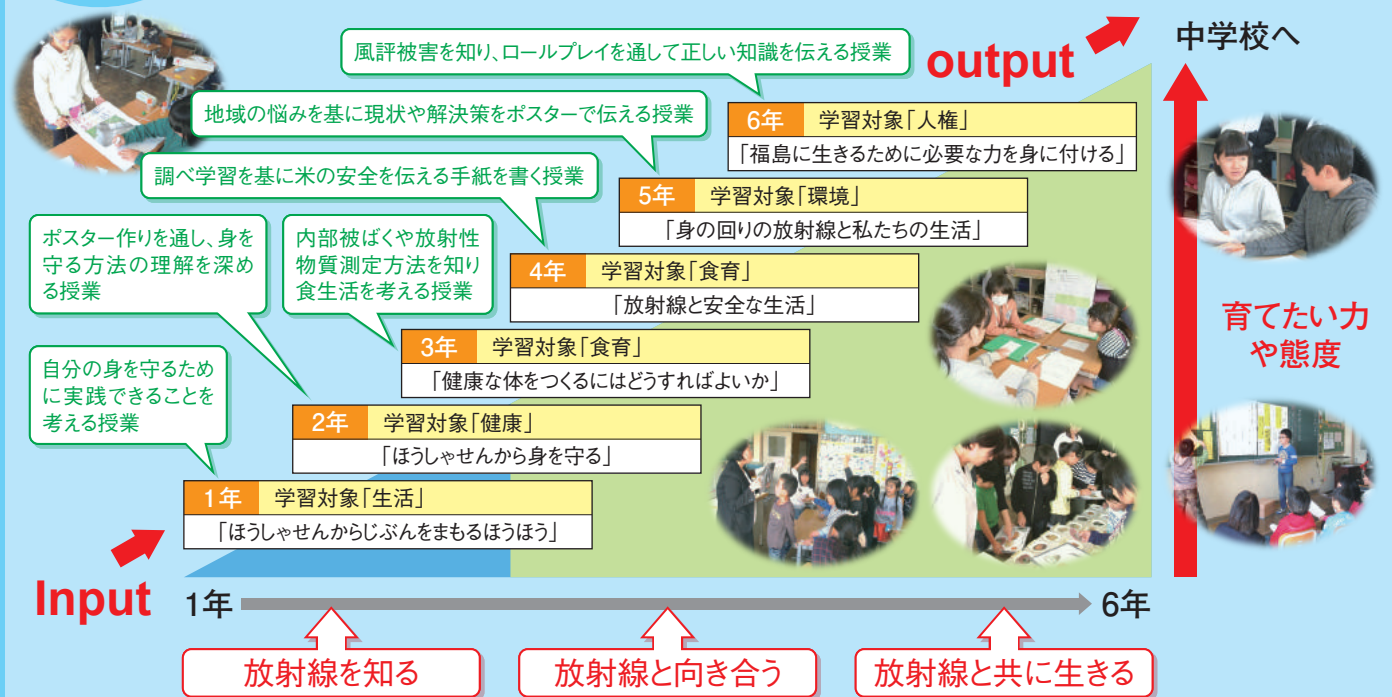
各地区の公民館や食品放射線検査所で
食品の検査を受けることができますよ。



12 小学校全学年 6年間の系統性を明確にした「計画カリキュラム」

自ら考え、判断し、行動する力を育成する 問題解決型の授業～生活科・総合的な学習の時間を通して～

西郷村立羽太小学校(児童数67人)



「生き抜く力」をはぐくむために・・・

福島県で大切にしている教育の中に、放射線教育、そして防災教育があります。東北地方太平洋沖地震及び(株)東京電力福島第一原子力発電所の事故から6年、これまで、様々な実践が各学校でなされてきました。(過去の実践協力校の事例についてはWebサイトへ)

本パンフレットは、福島県内の実践協力校12校がそれぞれの地域の実態に応じて取り組んできた実践内容を掲載しています。そして、福島県内の全ての先生方をはじめ、全国の教育行政機関に配布しております。

現在、実践中の先生、どう進めてよいか悩んでいる先生、それぞれが参考となる実践例を数多く紹介しています。福島県教育庁義務教育課のWebサイトには関連した指導案、資料等も掲載されておりますので、併せてご活用ください。



放射線・防災教育指導資料(活用版)が各学級へ!



今後、福島県内小中学校の各学級へ、「放射線・防災教育指導資料(活用版)」を配布します。(高校・特別支援学校へも配布)

これまでに作成した以下の指導資料から授業に活用しやすい部分をまとめました。(左図参照)

なお巻末には



放射線教育用学習教材 (授業の導入等に活用できるDVD)



放射線・防災教育指導資料集 (指導案・ワークシート・写真等入り)

も添付しています。ご活用ください。

「放射線等に関する指導資料」【第1～5版】

「防災教育指導資料」【第1～3版】

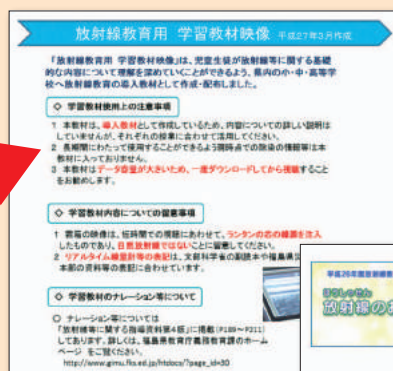
※各学校に配布済

くわしくは福島県教育庁義務教育課Webサイトにアクセス!

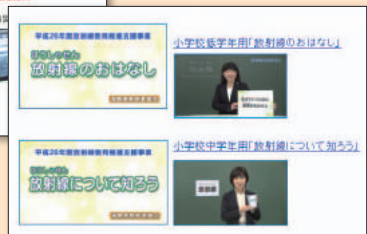


▲ふくしま道徳教育資料集

震災後のエピソードをもとに作成した小・中・高用の資料です。道徳の時間や読み聞かせなど様々な場面で活用できます。※各学校に配布済



Webサイトにも掲載!



放射線等に関する基礎的な知識についての理解を深めるため、放射線の基礎知識等を学習する際の導入教材です。

福島県教育庁義務教育課Webサイト
<http://www.gimu.fks.ed.jp/>



福島県教育庁義務教育課

検索